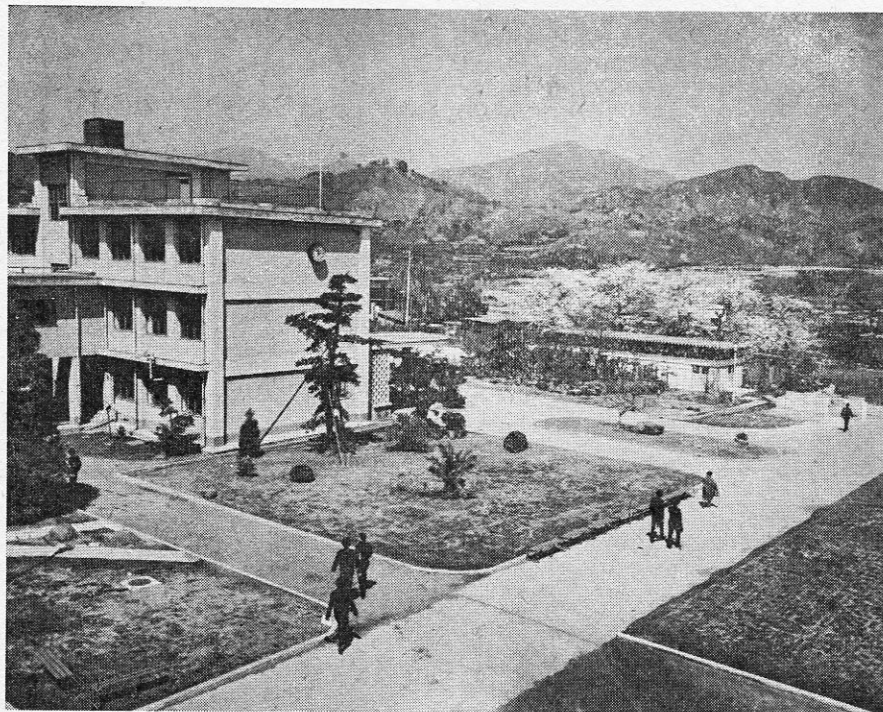


# 広陵

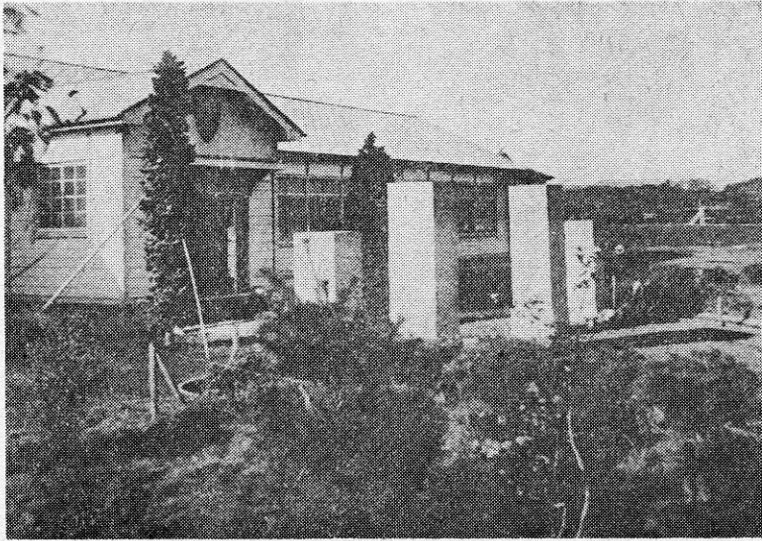


創刊号 第1号

47. 6. 25

神奈川県立秦野高等学校同窓会々報

《 思い出のシリーズ 》 (そのI)



奈珂中学校当時の母校の正門（昭和12年のアルバムから）  
右端の校庭越しに富士山をのぞむ。現校舎はこの校庭に建っている。

同窓会々報 創刊号 第一号 目次

表紙 題字

宮本信義

グリーンベルト側(プラタナス)から  
正門をのぞむ・正面に大山と弘法山

「広陵」の創刊を祝して……………会 長 尾 上 一 二……………1  
ごあいさつ……………母 校 校 長 手 塚 喜 二 郎……………2

「広陵」創刊に当って……………会 報 委 員 長 能 条 斐 雄……………2  
母校同窓会の現況をみる……………副 会 長 加 藤 頼 章……………3

同窓会の機構改革……………会 計 監 査 鷲 尾 彦 一……………3  
会 置 同 窓 会 総 会……………3

委 員 設 員 會 員 委 員 會 ・ 名 簿 委 員 會……………加 藤 頼 章 ・ 広 沢 富 正……………4  
四 の 會 館 委 員 會 ・ 會 報 委 員 會……………荒 井 権 八 ・ 能 条 斐 雄……………5

の 況 母 校 の 現 況 を みる……………母 校 教 頭 伊 沢 一 雄……………6  
校 の 母 校 の む か し……………湯 沢 昇 平……………7

母 現 母 校 の 進 学 カ ル テ……………校 内 幹 事 石 原 正 三……………6・7  
会 況 同 窓 会 ア ラ カ ル ト……………8

窓 現 「同窓会館」という声に・「旧講堂の存続について」……………8  
同 の 「学校林」のこと・「同窓会々費」の徴収について……………8

部 職 便 り 日 本 交 通 公 社 ( 栗 原 三 夫 ) ・ 茅 ヶ 崎 支 部 ( 青 木 滋 )……………11

同 期 会 便 り……………中 3 回 生 ( 奥 津 光 弘 )……………12  
母 校 の ク ラ ブ 紹 介……………12

予 算 決 算 ・ 会 費 納 入 ・ 編 集 後 記……………14

# 会報「広陵」の創刊を祝して

同窓会会長 尾上 一二



(中一回)

人間の成功 不成功は運にもよるが、昔は人の勤勉、努力、誠実と言った徳目が大きな役割を果していたが、今はちがう。勿論、これらの徳目も今後は必要であろう。然しそれ以上に必要な条件がある。その一つはさまざまな知識をシステマ的に結びつけてものを見る知恵と先見性である。

多様化した社会の中から変化を讀み、読み切る知恵である。この知恵の開発を心がけた人が成功者となると言つてよい。

外になし。

私は今、山岡莊八氏の「徳川家康」吉川英治氏の「新平家物語」を読んで、歴史に照さずとも古今の成功者はこの人脈を握ることが重要なを教えている。

二十代に学んだ知識を土台として仕事の面で大きく飛躍するとき、は三十台である。仕事の活動範囲が広がるに、そしてそこに学生時代の友人がいて「何だ君だったのか」と人脈を再発見することがある。人脈は心がけさえすればイモヅル式にいくらでも広がるものだ。

人脈、ヒューマンストックは情報蒐集のための最高の武器である。その道の専門家の話は僅かの時間でも、座談のひとときでも数冊の本以上の価値があることが多し、技術ならカンどころ、知識なら問題点のツボを心得ているから、人脈を握る、人脈を活用する、これが私の半生の人生体験である。政治、経済、文化、いかなる社会時々集まって旧交を温める、その

ためには、会員組織をどうするか、運営をどうするか、夫々の機関が討議し研究して行くようにして、昨年夏の同窓会総会で私は思いが上にも昂揚させ繁栄させたい。切つて、同窓会改革案を提示した、今までのように卒業時の幹事の集まりである幹事会運営を御破算にして、各種委員会による運営に改めようというのである。

会報、会館、会員、名簿の四つの許可をしてくれなかつたので望みを失つたのみならず、遂に旧講習は取り壊しの運命になった、かゝる社会の人脈に役立てしめるので、一年一回の同窓会に集まって旧交を温めるだけが同窓会ではない。どんな職域にあつてもお互いが広畑ヶ丘の同窓であるという同志意識をもって、先輩は後輩を引き立て、後輩は先輩を押し上げたことを祝福する。

末尾ながら同窓会運営について現手塚校長先生の御教示に対して衷心より感謝を捧げ、秦高繁栄を念じ、会員諸兄姉の御健康を祈る。

# ごあいさつ

母校校長 手塚 喜一郎



同窓会報の発刊を心から  
お祝い申し上げます。

四十四年九月着任以来、秦野市や周辺の方々に接するにつれ、何処に行っても、少しく話をしていくうちに「実は、秦高の卒業生です」と言われ、成る程、ことさらに同窓会活動をしながらも、日常生活の中に、同窓の絆が強く結ばれているのだと感じました。これだけの同窓が縦と横の関係で結ばれたらかなりの仕事ができると思っている。

旧校舎と現校舎とは位置を左右も心にほのかな暖かい灯を点じてと置き換えられているので、先輩

諸氏の多くには校舎への思い出は皆無でしょうが、奈珂中学校以来の広畑が丘に居をかまえて、鈴掛の木も巨木亭亭として昔の面影を残しています。県立高校の中には

昔日の思い出が皆無の学校の多い中で、その点でも幸いと思えます。変革の多い世の中で、少年時代の心の故里である母校と心を結んで

できる物は尊い存在と考え、私は思っています。一時移植された樹木なども元の位置に戻しました。校門の前の桜も老樹となったので

今年の卒業生が桜の苗を植えてくれました。県道の秦野鶴巻線を通るときは、この桜は大先輩から今年の新会員まで、母校を偲ぶかす

がとして、生き難い世を経る中心にほのかな暖かい灯を点じてと置き換えていられるでしょう。

往昔の徽章、バッチ・メダルその他母校の歴史を作った資料を集め、小田原藩校の流れを汲むというその跡を辿り、母校の歴史を詳しくしたく思っています。また、本校の前身の育英学校(在校生名と成績との全部が発見され

た)の発祥地を尋ね、そこに記念碑など建てられたらとも考えています。同窓会員大方の御協力をたいしてこそ可能と存じます。

職員・生徒一同心を合わせ、学業にスポーツに全国的活躍を遂げ先輩諸兄姉の築き上げた伝統を継いでいくべきです。

## 「広陵」創刊にあたって

会報委員長 能条 斐雄 (中6回)

多年の懸案で、緒についた訳ですが、その後、数回の夢が、今回各々の責任の重さを痛感している次第です。

故大橋会長の頃から十数年間副会長を勤めさせて頂いたので大過なまでに役員を辞退したいと考えていた矢先ですが、尾上現会長の

日秦野福祉会館 事業遂行への非常な御熱意に押されて、顧問の現手塚校長先生の会報

事業計画に基づき、幸い、校務多用を克服され、校内委員の土屋先生外諸先生方の

辱しめない美績を上げています。秦高今や満開寸前の勢いです。

「会報」を飾る写真  
蕪木孝之郎氏(中15)提供  
「かぶらき写真館」を経営  
創立当時から親子でアルバム  
作成等に尽力されている。

抑々、同窓会は会員相互の親睦を図るとともに、母校の健全な発展に貢献するために生まれたもの

です。県下の埋もれて大いに養成しようとする建学の精神によって大正十五年

年、懐しい「広畑ヶ丘」の名に拠って「会報」生まる。その限りない発展を祈って創刊のご挨拶と致します。

# 母校同窓会の現況をみる

副会長 加藤 頼章 (中3回)

昨年の総会において秦野地区の副会長であった和田三郎氏の後任として選任されました私旧制中の第三回卒の加藤頼章であります。本年は同窓会初まって以来、初めての広報であります「会報」が発刊されるにあたり私に表題の私見を書けとのことでありましたので標題に適するかどうか以下ペンを取りました。

私昭和六年広畑ヶ丘の校門を巣立って四十一年であり又丁度今年が還暦に当ります。そして過去を回想致しますに、よくぞ生きて来たかと深慮致します次第です。ひるがえって母校同窓会の現況をみるに誠に淋しさを感じる次第であります。六年程前から総会に出席して見るにその出席者は四、五十名程度であり、又地区社会に

ると考えたい。それこそ會員相互の親睦が生れ母校の健全なる発展に貢献することが出来る事と確信致して居ります。どうか広畑ヶ丘の校門を巣立って六千の諸兄弟の皆様の心からの協力をお願いしてやみません。なお問題解決法「組織の強化」の現象をさせて連ることは出来ませ

## 同窓会の機構の改変

會計監査 鷲尾 彦一 (中3回)

昨年八月、大山での総会で、会報、名簿、会館、會員の四つの委をめぐす仕事のあらわれである。この四つの委員会が相互に連けいを保ちつつ、いかに活動していくかにかかっていると思う。一面各會員が地域別に、職域別に、又、年次別にまとまりをもつことでもあ

47年度 総会  
本会総会は、毎年八月の第一日曜(今年は八月六日)に開催するよう定められていた。場所は従来の慣例で秦野、伊勢原、平塚、小田原の四地区を持ち回りでやっております。詳細は挿入の案内状によつてお知らせいたしましたから、奮つて御参加下さい。

具体的方策については「會員委員の抱負と展望」で申し上げることが心底から、それを認め、反省しようとし、きつめられたらいい。私、いつも思いますに一般世相は政治、経済、社会の誤まった活動がありますが、この誤まった活動は是正するには相当程度の摩擦を動かして立てなおす絶好の年である。この誤まった活動は是正するには相当程度の摩擦を動かして立てなおす絶好の年である。この誤まった活動は是正するには相当程度の摩擦を動かして立てなおす絶好の年である。

# 置と今後の活動 会て決定 の抱負と展望

## 四委員会委員長

会員委員長	加藤 頼章 (中3)
会報委員長	能条 斐雄 (中6)
名簿委員長	広沢 富正 (中9)
会館委員長	荒井 権八 (中17)

## 加藤 頼章

昨年(の総会)において各種(会員、会報、会館、名簿)委員会の設置が決定され十月五日、秦野において「各種委員の人選と第一回委員会の開催」が決定され十月二十七日付で委嘱されました。私は会員委員の委嘱を受けました。がま

組織内容、活動方策等決定されて居りません。第二回目の委員会を開いて決定致したいと思つて居ります。私平素(案)として考へて居りますものを以下申し上げて方向づけ致したい。

「母校同窓会の現況を見る」で申し上げました事に関連致しますが本委員会の活動は同窓会発展に結びつきますので重大であります。

三、活動方策

(1)委嘱された会員委員はそれぞれ支部結成の活動を行なつて支

充実と会員相互の交誼を厚くし、母校との緊密な連絡を計り、校風の振興に貢献する。

二、組織、各種支部結成のため各卒業年次別、クラス別および市町村別、会員就職先の各官公庁別、各会社別にそれぞれ一名以上の会員委員を選出し委嘱する。

四、その他

私案でありますので今後は二十六名の委員全員の見解を聞いて、肉をつけ最もよろしい活動方策を作成する。

## 広沢 富正

今回、名簿委員会の一長として、所感を述べ、同窓会員皆様の御協力を得、我が母校の発展を願う次第であります。

卒業して数年あるいは数十年経た今日、心身共に一生の中で最も急激に成長した中学校(現在、高等学校時代、あの広畑の丘の一角、同じ美しい風景を眺めながら築立っていた私達には、何か

会員委員は秦高同窓会の組織の共通したものがあるのは当然と思われま

きまとう。唯同じ母校で学んだというだけで、そこには、総てを超越した新鮮な心の交流があるものであります。時代の流れと共に

に会員お互にますます親善の度を深くし、大いに胸襟を開いて各自の知識を交換し、思うところを語

ら果立っていった私達には、何か、母校の当面する問題について

も、思いがけぬ解決や、発展の糸口にもなるものと思ひます。

そこで会員の動静と、その活躍の状況を常に明確にして、より同窓の団結と、母校の発展を見守つて参りますためにも、動静を常に

は最も重要なことであつて存じ

は不可能であります。前回発行は四十二年であります、ぜひ自分から、住所、現在の勤務先などを母

校宛御連絡下さい。

会費納入と同時に、御連絡ねが

な名簿がまとまることになるわけ

この名簿によって、より会員同窓の意識も上がり、お互に同窓を通じて社会生活の中でも利用し利

### 委員会活動へ協力を

て、いとを  
子でん成  
つげん長  
のちで子  
四う供  
り待親は  
か関が親  
ば難はが  
れな先す  
生ど行所  
全このか  
このい盲

立、り、あ  
り、で、空  
も、一、く  
一、日、一、  
り、一、人、  
リ、一、会、  
の、育、員、  
子、の、を、  
つ、は、を、  
四、の、窓、  
の、信、高、  
下、記、の、  
て、わ、が、  
び、か、せ、

# 設 四委員会の

## 46年度総

### 各委員会委員長

#### 荒井権八

同窓会館を造る案は永い間の同窓会の宿題であり悲願で有りました。処が私共及先輩が戦時中植林と下刈りに汗水を流しました義毛の報國造林が二代に昇ります校長先生の英断によりまして同窓会の財産として無償譲渡を受けました事が、干天の怒雨となり同窓会館委員会が発足出来ました直接の契機となった次第でありましてこの

報國造林の払い下げを火種として、数多くの炊本を集め、それをカローリとして同窓会館という作品を造り上げねばならぬ義務が私共

に課せられている訳でその問題を具体化しそれを行動に表わして行かねばならぬ事となりました。楽な懐旧の場として将来とも御利用し上げます。

昨年八月一日の総会の後、十月二十三日、十二月十一日、二月八日と数回の委員会を経て、会報発

とにらみ合わせての計画です。その他の活躍の状況、卒業生の就職進学の模様なども掲載していきます。

行が漸く軌道に乗ったのは何と言つても喜ばしいことです。

「すすかけ」(アラタナスの和名)にしたらなどの意見も出ました。この四十六年度分を「回発行されて来ましたが、この「広陵」におちつきました。

#### 雄 斐 条

数十年前の総会のために支部結成、組織強化の問題がとりあげられて来ましたが、この

の意見発表、趣味文芸等、また会費の納入状況までお知らせしたいと思ひます。特にやがて予想される五十周年の行事計画のPRなどにも十分役立つと欲深く期待されます。また母校御経営の現状や先生方の御様子、在校生クラブ

#### 能 能

会報が同窓会強化のために、縦と横の結びつと考えております。但し経費の関

を上げた、所存で御座います。目的完遂のための手段方法は色々有りまして、同窓の皆様方の衆智を御借りしまして、他校の同窓会館よりも、より多くの価値を生み出し得る様なものに致し度く考えておりますので一人でも多くの同窓会員の皆様方に御鶴声を願ひまして一日も早く成就出来

#### 能 能

きのために必ずや役立

たいと考えます。手塚校長先生には印刷所あつた、校内幹事の労までとって頂き、校内幹事の

# 母校の現況

母校教頭 伊沢 一 雄

梅雨煙る今日(このころ)、卒業生す。十年ほど前とは校舎とグラウンドの青緑には(活躍のこと)思ひます。下の位置が逆になりました。古い卒業生には思ひ出のある旧秦中創

母校の現況を少々。広畑ケ丘一 立並初の古風な講堂がこの三月に「北相の雄」から県下、関東さら万奈坪の校地に鉄筋校舎四棟がそ 解体されましたので、昔を思ひ出 すり立ち、体育館・格技場のほか すよすがは亭々たるプラタナスの スプリングラー(撒水器)設置の グリーンベルトくらいかもしれま

卒業生には思ひ出のある旧秦中創 プ活動も盛んで、スポーツでは 二百メートルくらいのを東名高 速道路が走り、最近はおなじみの クリートの建物が林立し、眺めは 欠の上台地に団地が造成中でコン 職員は手塚学校長以下総勢七十 余名で、先生方はこれまでほとんど 大分悪くなり、ここにも都市化の と男子といつて誠に男くさい、波は急速に寄せている有様です。

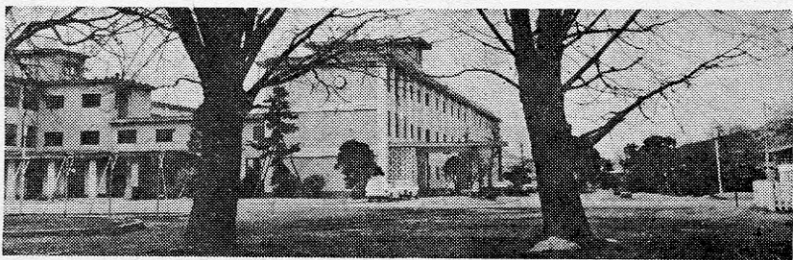
# 況をみる

## 学カルテ

(中15回) 三正原石  
母校も最近の社会情 勢を反映して進学希望 者が年々増加の一途を 辿り、昨今は九〇%を 越えるに至っている。 越えるに至っている。 宅から通学出来る沢山の私立大学 望者の志望大学を設置 者別に分けて考える 約五%と極めて少な 何校受験して何校合格したかを示

(下欄の写真)

現在 秦野高校校舎の第1棟と2棟を東側から眺めたもの。操場西側には大木は旧雨天体場西側と昭和二年に植樹されたプラタナスと現在旧講堂西側のグリーンベルトにある。







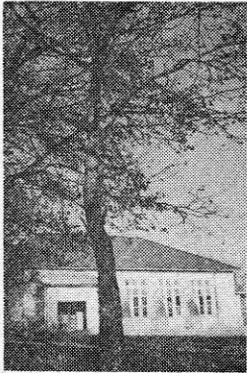
# 「同窓会館」はどうなる

同窓会総会の席で耳にし、また、現在二一〇万円の積立ておわ幹事会でよく話合われるのが、同窓会館設立のむすかしである。終らないためには、抜本的計画を待たざるを得ない。

会館設立準備のため各年度会計より二〇万円ずつ積立ててきたもの、昭和四十五年度よりこれも切迫のため）とな

## 会報名について

会報名「広陵」については、多くの名前の中から選ばれ、昔の面影を残す唯一のプラタナスにちなみ「すずかけ」の案と二つから決定をみたもの。この地「広畑ヶ丘」は、すべての同窓生が眺みえた大地であり、その土の香りをとけるという意味もあつて命名されました。皆さん可愛がって下さい。



旧講堂の前の寸前

学校は昭和十四年十二月二十二日、現在の北奈野村が昭和四十五年七月二十一日、四町八畝をかりうけここに植林したものです。年々の在校生のけん身的奉仕は今でもなつかしい思い出として語られています。三十

## 「旧講堂」の存続は

旧講堂（三二七・三五㎡）は、す、ついに西側に並大イチョウ立移管を記念して、昭和十二年二月十日に新築されました。それ以来今日まで三十五年の星霜を

## 同窓会アラカルト

みんな考えてよう！

またの新生を迎えをして卒業生を社会に送りだしてまいりました。しかし、寄る年波には勝て

## 「学校林」について

学校林は昭和十四年十二月二十二日、現在の北奈野村が昭和四十五年七月二十一日、四町八畝をかりうけここに植林したものです。年々の在校生のけん身的奉仕は今でもなつかしい思い出として語られています。三十

推進してはならないのではな、どこに用地を求めるか、地価高騰の折わずかな積立金で買収できるかどうか。会館委員会に期待することは大きいのである。

## 「同窓会費」の徴収について

従来は卒業時終身会費を納めればそれでよかったのですが、会運當資金の絶対額の不足や、卒業して行く若い人達の終身会費のみに依存している現状に対する批判から、昨夏の総会で今までの終身会費制が改正され、新たに「入会金千円、別に年額五百円の会費を徴集する。但し卒業後五年間は徴集

### 昭和四十六年度同窓会役員

- |        |             |
|--------|-------------|
| 会長     | 尾上 一二 (中1)  |
| 副会長    | 加藤 頼章 (中3)  |
| 〃      | 桐生 良司 (中3)  |
| 〃      | 熊家 斐雄 (中6)  |
| 〃      | 広沢 富正 (中9)  |
| 〃      | 荒井 権八 (中17) |
| 会計     | 石原 正三 (中15) |
| 〃      | 川口 祥有 (中17) |
| 〃      | 鷺尾 彦一 (中3)  |
| 〃      | 足立 行雄 (中5)  |
| 四委員会委員 |             |
| 会報委員長  | 能条 斐雄 (中6)  |
| 〃      | 加藤 頼章 (中3)  |
| 〃      | 廣沢 富正 (中9)  |
| 〃      | 荒井 権八 (中17) |

(会費納入用紙)

↓切りとって使用下さい→

払込票									
※	口座番号	東京	十	千	万	十	百	十	番
		2	2	6	8	9			
※	加入者名	神奈川県立秦野高等学校同窓会							
※	金額	億	千	百	十	万	千	百	十
									円
※	払込人住所氏名								
料	払込特	殊							
金	円	円							
備	受付局日附印								
考									
(郵政省) 番号 局号 番印									

記載事項を訂正した場合は、その箇所に証印して下さい。  
 会費の記載事項に関連のないことをお確かめ下さい。

文字は正確明りように、数字はアラビア数字を使ってお書き下さい。

払込通知票									
※	口座番号	東京	十	千	万	十	百	十	番
		2	2	6	8	9			
※	加入者名	神奈川県立秦野高等学校同窓会							
※	金額	億	千	百	十	万	千	百	十
									円
※	払込人住所氏名								
備	受付局日附印								
考									
(郵政省)									

会費の※印欄は払込人において記載して下さい。

## (会費納入用紙)

(注) 加入者が自分の口座に払い込む場合の料金は、あらかじめ指定してある郵便局で払い込むときは免除され、その他の郵便局で払い込むときは口座の貯金から差引くことになっておりますから、郵便局で納付する必要はありません。

この用紙により振替貯金の払込をなさるときは、表面※印欄にそれぞれ記入(加入者が自分の口座に払込む場合は、私)し、これに払込金と料金を添えて郵便局へお出し下さい。

## 御 注 意

この欄は、加入者あての通信にお使い下さい。

欄		信		通	
一、昭和 年度会費 円	卒業回数( ) 回)明・大・昭 年卒	住所	氏名	勤先	職業所在地
				名称	
			Tel. ( ) ( )	Tel. ( ) ( )	

..... 職域  
..... 支部 便り .....

「秦交会」(日本交通公社グループ)

栗原 二三夫 (高3)

二十年前、田舎者の私は、交通組織作りの糸口をつかんだ。翌  
公社に入社した。当時弊社は創業 々々年新宿公社に、松井育美君(現  
四十年の歴史ある式典を行ない、渋谷支店が入社し、早速激励の  
旅客サービスの一環として、取引 電話をかけた先須崎氏の紹介と  
顧客先を、優先し三浦半島のバス「秦交会」の設立準備をした。秦  
旅を催した。初めての、添乗と胸 高の「秦」交通公社の「交」を頭  
をぶくませ、三〇台程の輪旋の 文字にして「シンコウ」会が、誕  
一員として参加した。私の受持ち 生し箱根で初会合の上、職域内  
車輦には、先輩、後輩、旧友の再 に、おける、お互いの援助、指  
会風景が特に目立ち、お互いに満 導、協力を、約束した。以後数年  
足感に、たまたまよっていた。ふと私 して、企業的发展和同時に、後輩  
は世間の狭さに驚いた。翌日会社 が年々増加し、今や秦会々々員も  
に戻り弊社にも、キッ先輩が、 現在で、二〇名になり、年一回の  
いるかも知れないと思ひ、上司と 懇親会も盛大、活気的で、最近  
懇談しているうちに須崎薫夫氏 では各職場のPRや、国内、海外  
(現交通公社関連会社、旅行スタン 旅行の思ひ出、恋愛論に花を咲か  
ブKK営業部長)の紹介を得た。 せ、時の立つのも忘れて一夜を過  
早速見ず知らずの先輩を尋ね、母 すが年中行事ともなり、若者顔  
校の歴史や、思ひ出にふけり、併 負の苦人も続出するなど、今や天  
せて公社の前途と、親交を深め、 下の秦交会と自称しています。一

般に地方出身組に多い県人会等のと云われる、今日の頃、男世帯が先に立ち、学校を忘れ、自分を集いは、よく聞く話したが、首都で、お互いに「シツケ」「ケシ」忘れ都合によって生きる人が、多  
圏に住む我々には、とかく同窓、メ、「節度」「プライド」等直接 間接的に修得出来る環境作りは、己啓発をして、お互いに、常に感  
職域会合でさえ、あまり聞かない 我々の誇りとしている。同窓の皆 謝の気持を忘れることなき、同窓  
昨今、我々は固く団結し、後輩の 育成に余念がない。最近では後輩 さん、職場、環境、地位、そ違っ の団結により、より一層校風の美  
が、体質共に充実し、会合には麻 ても、共通点は全 同しでありな 化と、誇り高い学校運営に教師共  
雀、ゴルフ等一層の親交を深めて がる、人間本能の劣等感により、 々、最大の努力をしたいものであ  
いる。「学問あつても教養なし」 社会人になると、とかく「ミエ」 る。

から 支部 青 木 滋

6回 私たち茅ヶ崎支部会 だ。幸いにして地区の皆さんも、将来への抱負、推進のための決意  
は、四十一年に誕生し この熱意に動かされ、先ず吾々の を伺い一同意を強ういたし、深甚  
ましたが、今日にまで 親睦と交流のためにもと、数人の なる敬意と感謝を以て、協力申  
育ったことは、同窓会 発起人の方が更に拍車をかけて頂 上げることになりました。ま  
幹事であり、会員委員 きましたお蔭で、現在会員数は約 四十名になり、第一回目の会合の  
の岡野勇氏(中上回)の 素晴しい精力的なお力 時には、遠路出席を頂き激励の  
によつて生まれたりとい 小会合を度々ちました。 おことばと寸志を頂戴いたし申し  
つても過言ではありま せん。同氏は同窓会長 ですが、それは「せめて年に一回 口として、また、社交の場、相互  
る幹部の皆様のご意図や の会合をもちたい。」といふこと の互助のための苗代となれば幸い  
部 抱負、将来へ進むべき でしたが実際にには仲々むすかしい で、これが会員の皆さんの幸福に  
道を具体的に説明され ことでした。一昨年の秋でした まつてつながり結果的に同窓会の際  
、茅ヶ崎在住の会員に か、尾上会長さんにわざわざ出 島への橋がかりになる事とを祈っ  
もてそれを徹底されまし 席を頂きまして同窓会の新機構と っております。

# 中20回 奥津光弘

昭和20年8月15日、第2次世界大戦終結を我々「中20回生」は横浜追浜にあった海軍技術支庁で迎えた。

## 二期会 便り

この極めてドラマティックな事件は15才の多感な少年達に生涯にわたる大きな影響を与えた。絶対正しいと言われた全体主義によるすべての拘束は一夜にしてくつがえされ、戦後の混乱が我々を容赦なくおそったのである。

昭和22年3月旧制大学予科に中学4年を卒業した十数名が入学した。翌23年3月中20回生が卒業し、更にそのうちの50数名が新制高校第一回生として残った。つまり学制改革の第一号になったわけである。社会の急速な変革は我々の結束力をつよめ、苦業とともにした先生や生徒のつながりも文字通り固いのである。隔年に秦野、平塚、伊勢原、小田原地区と持回

りてクラス会をひらき、一夜を語り明すのである。社会の最前線に活躍している我々20回生を自らよ



んで「花の20期生」と言っ。努力重ぬる行手には桂の暮るる20回生の目標である。

## 母校のクラブ紹介

### 光る陸上部の健脚

#### 陸上部

全国総合大会にも出場

昭和46年度、我が秦高陸上部は輝やかしい成績を残しました。

記録では、昭和29年、石田福治先輩の輝やかしい百米11秒2、二

百米22秒9を17年ぶりに書きかえ

たし、八百米千五百米、百ハドル、千六百リレー、四百リレーに夫々秦高新記録を樹立したものです。

しかし、その充実した力をもつていながら、5月の県大会では二

点差で負けたり、6月、千葉で行なわれた関東大会では優勝いたしましたものの8月、鳴門の全国大会は、また苦杯を喫するという具合で残念でした。この全国大会は

島ありー。未来の栄光を夢見 台風の中を鳴門まで応援にかけつけていたとき感謝に堪えません。

11月の県高校駅伝には一位を獲得しこれは、先の関東陸上総合優勝開校以来に次ぐ、20数年振りの快挙だをうです。関東高校駅伝は、

勝てる力を持っていたし、実力 山梨東河口湖で行われましたが、

全国一だったと今でも思いますが、これは中位以下に終わりました。

不運という他ありません。これは この他 団体に二名の選手を送

主将の久保寺が初日に肉離れという(左大腿)けがをしてしまった

からです。 尾上会長、込山校内幹事他、 谷、小宮、岩田OB学校長等が、

決しておろそかにしてはならず、 いくらにしても、再三の遠



南関東の800際は、神奈川・秦野の石井隆士が1分56秒0の好記録で優勝。

南関東

6/18-20 千葉

「陸上マガジン」に掲載されたもの

征に同窓会から御支援を頂き、全  
国大会の時は特別カンパをいただ  
き、只々感謝の念で一杯です。  
今年度も、まだまだ優秀な選手  
が残っていますし、十分に戦力を  
持っていますので、秦高の名をあ  
げたいと頑張ります。(武井記)

全国総体開催中の八月一日、  
大山こまの総会席上選手激励  
のカンパが行われ、会長はこれ  
を携えて鳴門会場へ馳せ参じ  
た。

### 弓道部

先輩の皆様お元気ですか。現在  
新入生が入学したばかりなので、  
二年生十五名、三年生七名で毎日  
練習に励んでおります、これから  
四・五・六月と大きな大会が数多  
くひかえております。去年は茨城  
で行なわれた関東大会に出場し、  
そして団体選手に一名選ばれ、参  
加するといふ素晴らしい成績を修  
めました。今年も去年に引けをと  
らぬようクラブ員一同頑張りたい

### 柔道部

昭和二十六年、白井教諭(現立  
野高校)により柔道部復活、昭和  
三十六年以降は当時からの輝やか  
しい伝統を守り、込山教諭が指導  
にあわっている。最近では、三年  
連続関東大会出場、又昨年度全国  
大会県予選、体重大会第二位  
の成績を上げている。部員も六〇  
名余り、卒業生を含めて三〇〇  
有余名の有段者がいる。今後も自  
他共栄の精神を旨として健闘しま  
す。(込山記)

### テニス部

昭和四十二年春、金尾・関野組  
が県大会(関東予選)に優勝して  
以来、陸球部は目ざましい実績を  
あげています。四十二年以降、連  
続五年、関東大会出場、その他各  
種県大会にしばしば三位以上に入  
賞の記録をもっています。先輩各  
位の鋭いくれた伝統と栄誉に応

えるべく、在校生、現在部員二十  
五名も一致団結大いにかんぱっ  
ています。よろしく御声援の程  
お願いいたします。(宮田記)

### 剣道部

私達秦高剣道部は川瀬、相原両  
先輩を始め多数のOBによる指導  
と四四年からは松島先生という名  
コーチを迎えて部員の質的充実と  
共に強いチームワークを作り、初  
出場を経験して一断とたくましい  
部に成長しました。厳しい試練を  
経た気骨と余裕のある人間を育て  
る事を目的としております。

(鈴木記)

### 学校新聞

「校友会」誌が、戦後二十二年  
の混乱期の中に出た学校新聞の  
波のつて誕生し、現在九十三号  
まで育って来た。  
この間、さまざま曲折と折伏  
があったが、二、三年來、県下で

も優秀なでき栄をみせており、聞コンクールで優秀賞(県教育長  
昨、四十六年秋には県下の学校新 賞を受賞している。(土屋記)

## 校内一万米競争健在

### 無事故で26回を迎える

私の学生のころから駅伝競走が  
の年輪にまきまれ、次代の後輩た  
始まり、秦高賞実剛健の風を養  
ちに引きつがれている。苦しく  
うための校内一万米大会が効を奏  
も、きびしくても、参加すること  
し駅伝に上位を占め、秦高の伝統  
と、伝統を守るといふ気魄に落伍  
を築き上げた。一万米も交通事情  
者も毎回みられない。尚同窓会か  
でコースは変更されたが、二三年  
ら湯吞茶碗が賞として贈られて  
間の永きにわたり無事故で秦高  
いる。 茨谷富治夫(中16)

26回(46. 11. 22)大会の力走



昭和46年度 秦高同窓会 予算 (46.4.1-47.3.31)

収入の繰越金	前年度決算額	本年度予算額
前年度生入	215,029円	288,827円
卒業生入	386,000	370,000
雑入	0	1,500,000
合計	8,763	4,000
支出の雑費	609,792	2,162,827
会議費	46,271円	140,000円
総幹事会費	35,431	60,000
幹事会費	10,340	20,000
委員報酬	0	60,000
立寄費	311,080	1,160,000
準備金	0	1,000,000
立寄費	126,000	80,000
立寄費	40,000	30,000
立寄費	45,080	50,000
立寄費	63,614	421,500
立寄費	10,000	20,000
立寄費	44,514	250,000
立寄費	8,000	150,000
立寄費	1,100	1,500
立寄費	0	441,327
立寄費	320,965	2,162,827

表紙「広陵」題字紹介

宮本信義(中5回)生

現在伊勢原高校教諭。歌人、書十一年まで母校において永く同窓家で、秦野市「西芳寺」住職、四会幹事としてお働き下さった。

会費納入お願い

主旨

八頁に書きました様に、昭和四十六年度より会費を徴集することにになりました。従来なかったことですが、本会発展のため、絶大な御協力をお願いします。

折り込みの振替用紙に所要事項も、一つ會員のみさんの手にかかっています。とにかくニュース送金下さい。別に振替手数料二十円を要します。尚郵便局の受領証にて本会の領収書にかえさせていただきます。

（石原記）

送金の方法

原稿お寄せ下さい

編集後記

◇何分にも、「生みの苦しみ」とかいっ長い陣痛でした。初産ですからそれもち仕方なかったと言えましょう。

◇創刊号ですので、なにしろ要領を得ず見苦しい点が多々ありますが、今後より読み易く、愛される会報に育たいと願っています。

◇内容は主に学校の現在の様子同窓会の様子をお知らせすることに重点をおきました。

◇従って、原稿執筆者も限られ

〒 257

秦野高校同窓会

広報委員 会

発行所 秦野市下大槻一〇三番地  
 東立秦野高等学校内  
 発行責任者 土屋 毅(高4回) 青木利之(高4回)  
 編集責任者 石井郷二(高7回)  
 電話(秦野)〇四三(7)一四三二(三)  
 振替口座 東京二二六八九  
 能楽斐雄(中6回)

〒 257